

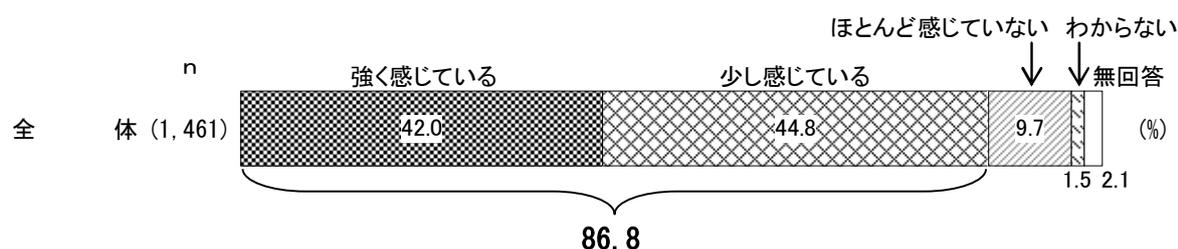
6 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

◇『感じている（計）』が8割台半ば

問30 平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、千葉県内でも震度6弱を記録し、大きな被害が出ました。また、県外では平成28年熊本地震（震度7が2回発生）や、記録的な大雨や台風により浸水害や土砂災害なども発生しております。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。（○は1つ）

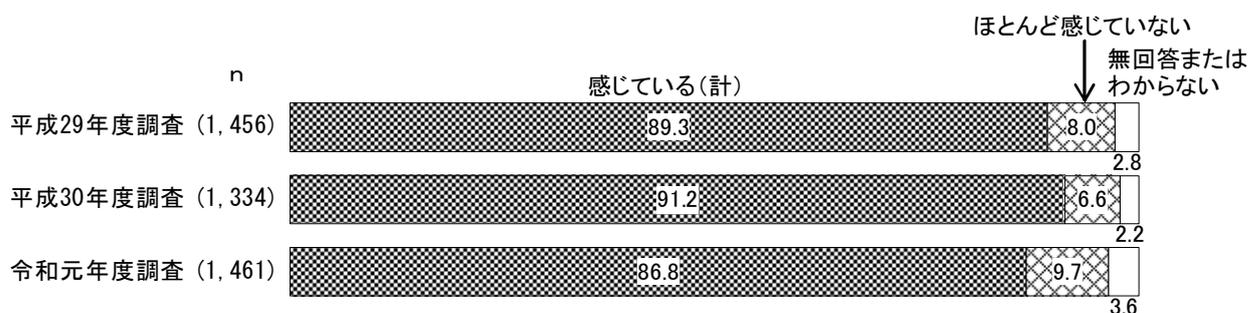
<図表6-1>大地震や風水害への不安



大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」（42.0%）と「少し感じている」（44.8%）を合わせた『感じている（計）』（86.8%）が8割台半ばで高くなっている。

一方、「ほとんど感じていない」（9.7%）が1割未満となっている。（図表6-1）

〔参考〕平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「ほとんど感じていない」は“印旛地域”（14.3%）が1割台半ばとなっている。（図表6-2）

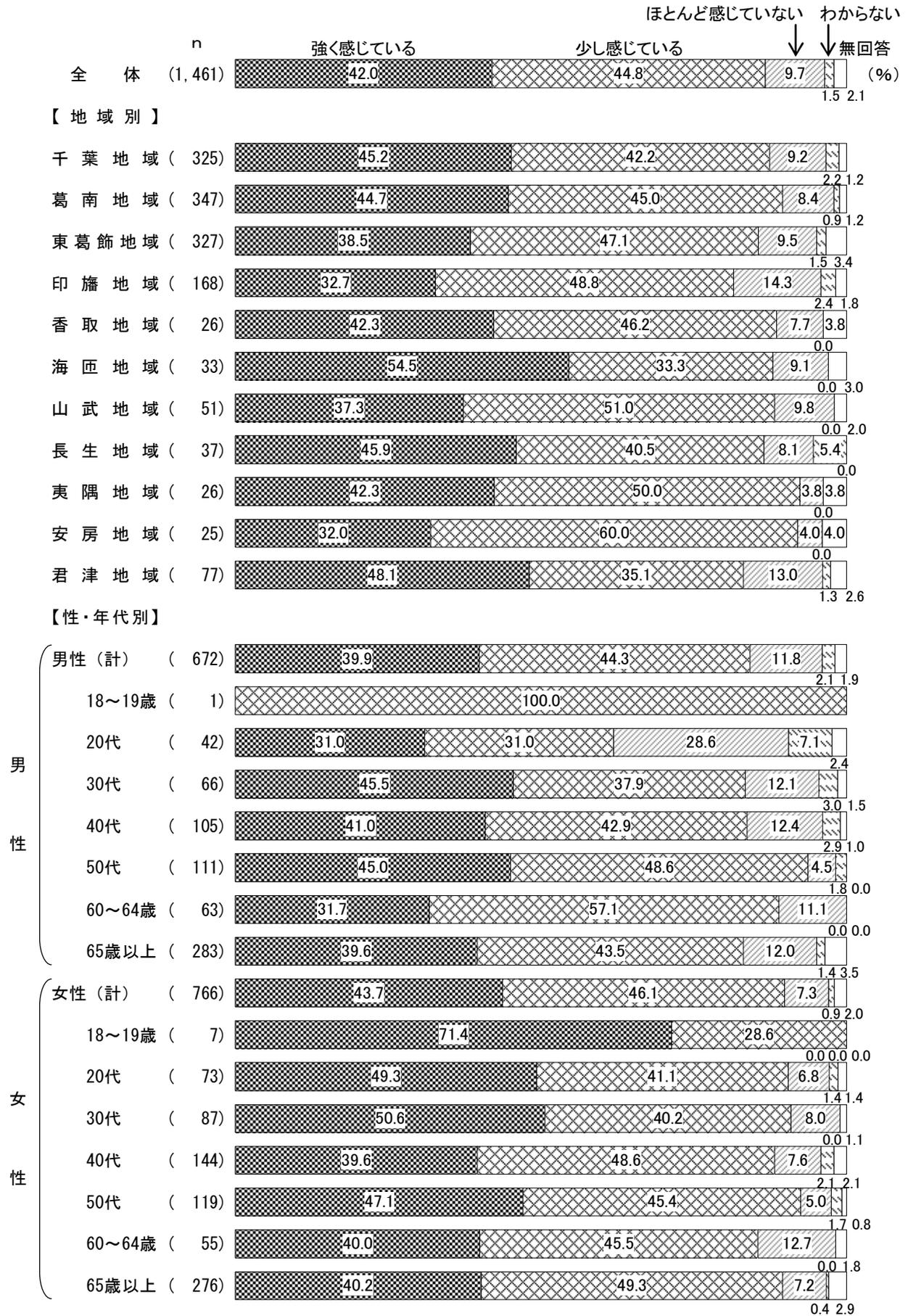
【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じている（計）』は男性の50代（93.7%）が9割台半ばで高くなっている。

一方、「ほとんど感じていない」は男性の20代（28.6%）が約3割で高くなっている。

（図表6-2）

<図表6-2>大地震や風水害への不安／地域別、性・年代別



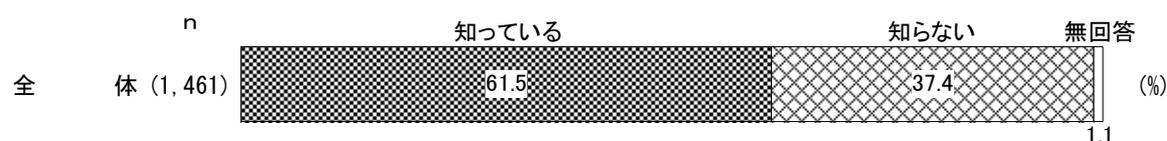
（2）水害・土砂災害の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いて伝える方法に変わったことの認知度

◇「知っている」が6割を超える

問31 水害・土砂災害の防災情報の伝え方が、レベル3で「高齢者等は避難」、レベル4で「全員避難」といった、5段階の「警戒レベル」を用いる方法に変わりました。

あなたは、そのことを知っていますか。（○は1つ）

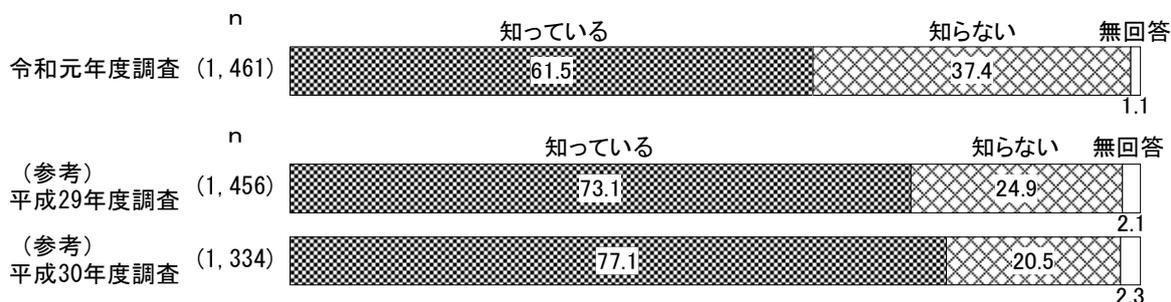
＜図表6－3＞水害・土砂災害の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いて伝える方法に変わったことの認知度



水害・土砂災害の防災情報の伝え方が、レベル3で「高齢者等は避難」、レベル4で「全員避難」といった、5段階の「警戒レベル」を用いる方法に変わったことを知っているか聞いたところ、「知っている」(61.5%)が6割を超えて高くなっている。

一方、「知らない」(37.4%)が約4割となっている。(図表6－3)

【参考】平成29年度・平成30年度の類似の項目による調査結果（単位：％）



(※) 平成29年度調査・平成30年度調査で、「市町村では、災害から住民を守るために『避難勧告』や『避難指示』を発令することがあります。あなたは、これらの意味や違いを知っていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“香取地域”(80.8%)が8割で高くなっている。

(図表6－4)

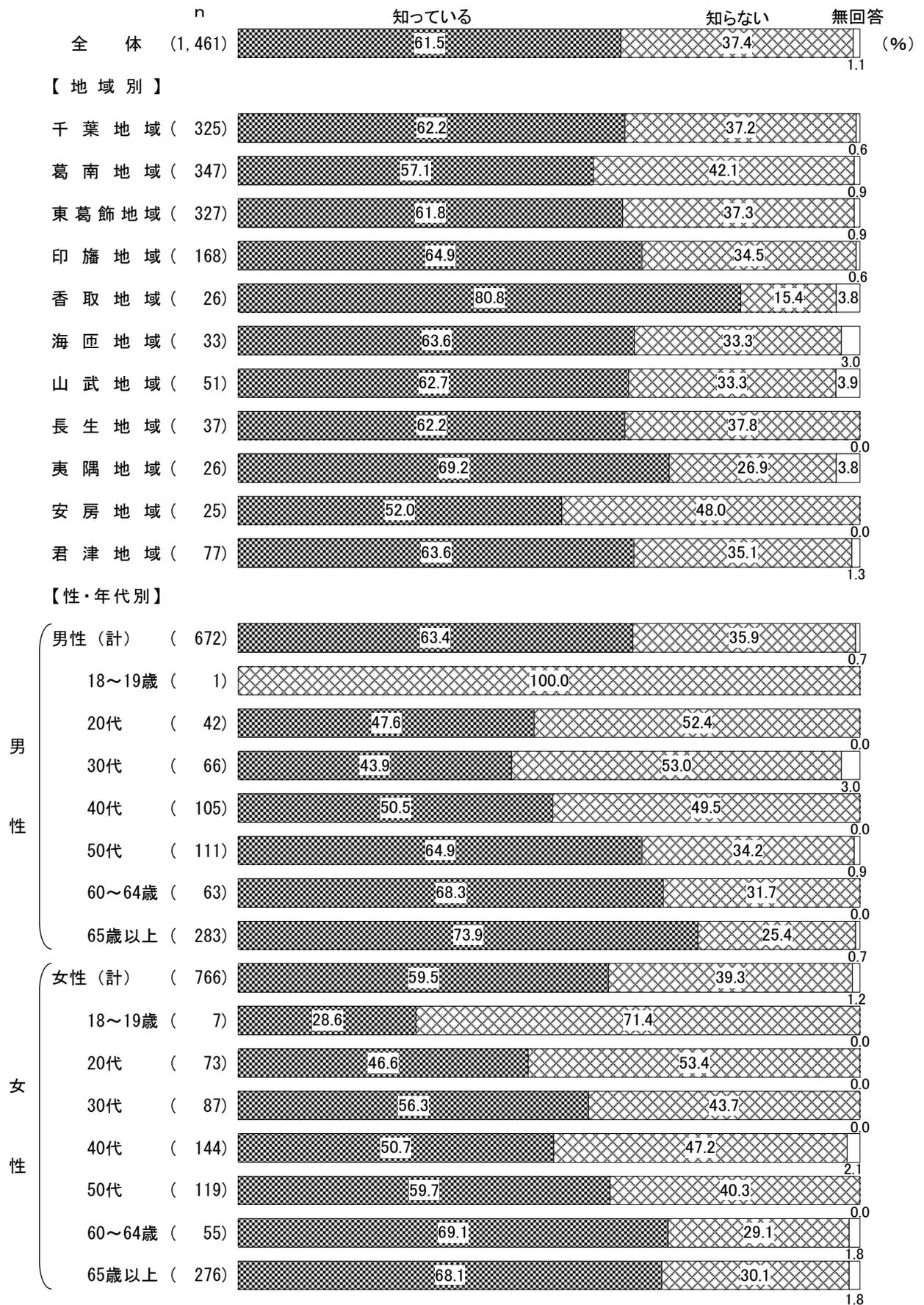
【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は男性の65歳以上(73.9%)が7割台半ば、女性の65歳以上(68.1%)が約7割で高くなっている。

一方、「知らない」は男性の20代(52.4%)、男性の30代(53.0%)と女性の20代(53.4%)が5割を超え、男性の40代(49.5%)と女性の40代(47.2%)が約5割で高くなっている。

(図表6－4)

＜図表6－4＞水害・土砂災害の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いて伝える方法に変わったことの認知度／地域別、性・年代別

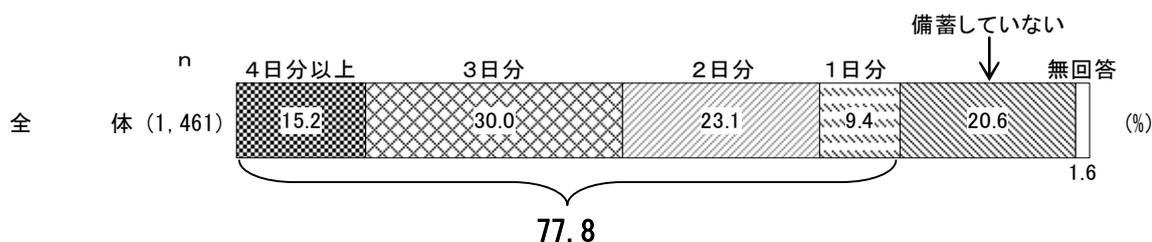


（3）飲料水や食料の備蓄状況

◇『備蓄している（計）』が約8割

問32 大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることが予測されます。あなたは、災害に備えて、冷蔵庫にあるものを含めて、飲料水や食料をおよそ何日分、備蓄していますか。（○は1つ）

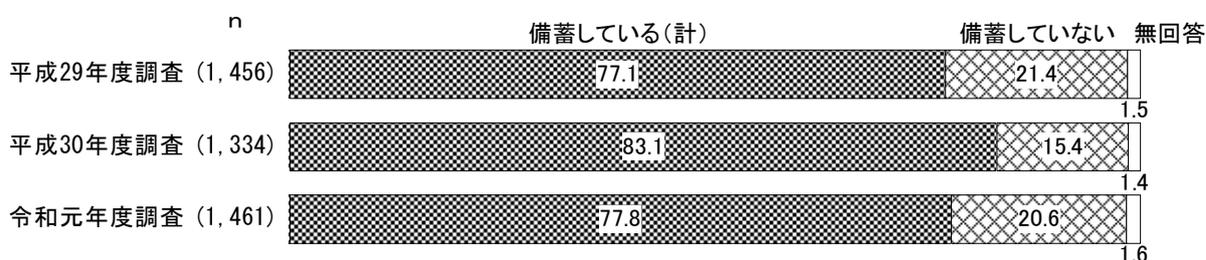
<図表6-5> 飲料水や食料の備蓄状況



飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「4日分以上」（15.2%）、「3日分」（30.0%）、「2日分」（23.1%）、「1日分」（9.4%）の4つを合わせた『備蓄している（計）』（77.8%）が約8割で高くなっている。

一方、「備蓄していない」（20.6%）が2割となっている。（図表6-5）

〔参考〕平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「4日分以上」は“夷隅地域”（30.8%）が3割で高くなっている。

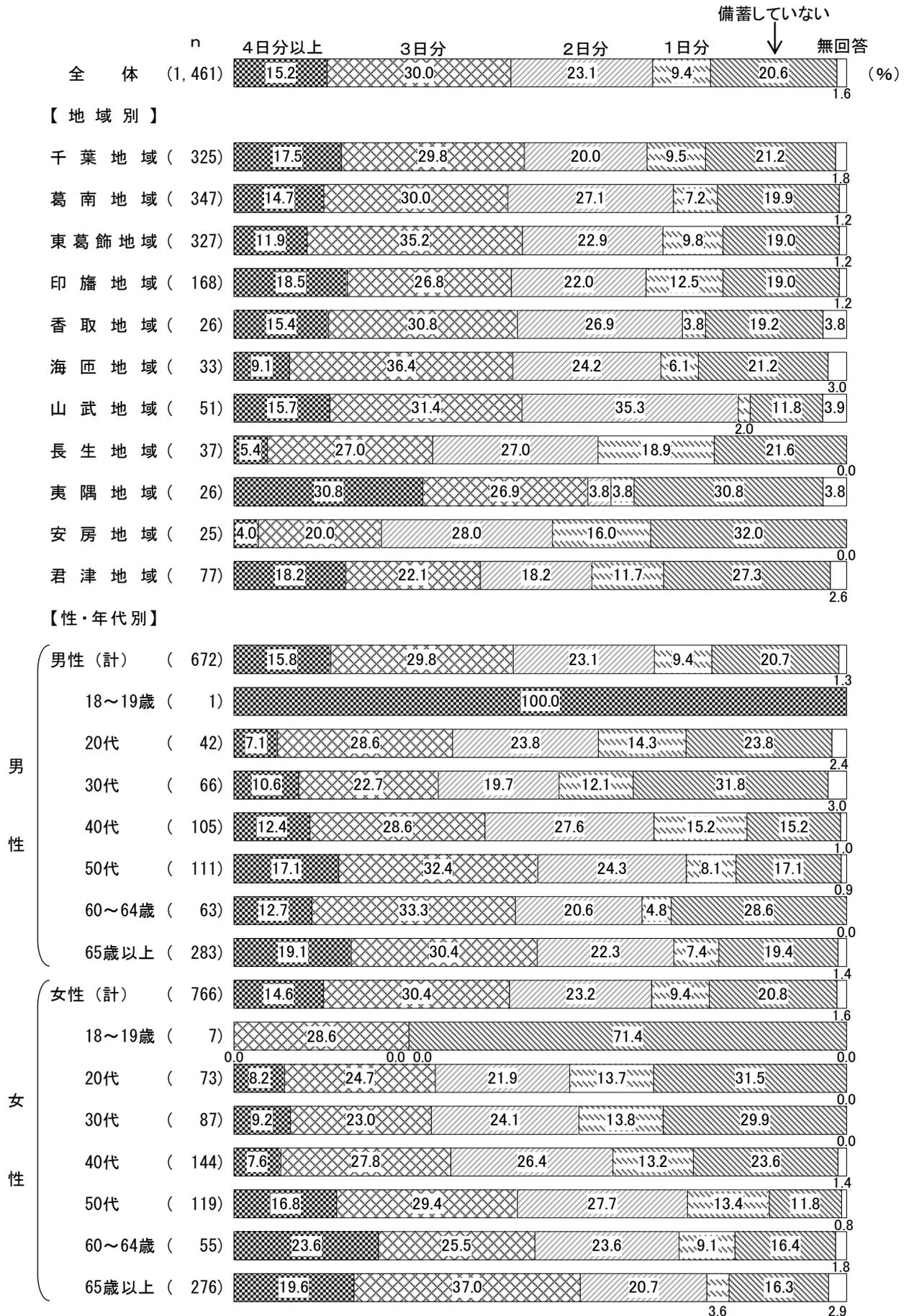
「3日分」は“東葛飾地域”（35.2%）が3割台半ばで高くなっている。（図表6-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『備蓄している（計）』は女性の50代（87.4%）が約9割で高くなっている。

一方、「備蓄していない」は男性の30代（31.8%）と女性の20代（31.5%）が3割を超え、女性の30代（29.9%）が約3割で高くなっている。（図表6-6）

<図表6-6> 飲料水や食料の備蓄状況／地域別、性・年代別



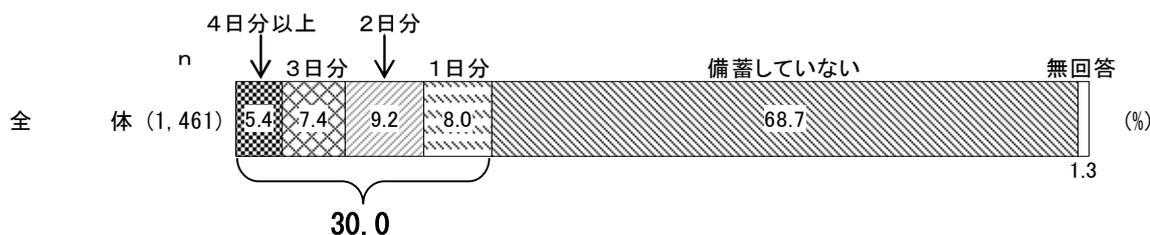
（４）災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況

◇『備蓄している（計）』が3割

問33 大規模な災害が発生した場合、断水や停電、給排水管の損壊、し尿処理施設の被災により、水洗トイレが使用できなくなることが予想されます。あなたは、災害に備えて、家庭での災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）をおよそ何日分、備蓄していますか。（○は1つ）

※1日分＝1人当たり1日5回分×家族の人数

<図表6-7>災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況



災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況を聞いたところ、「4日分以上」（5.4%）、「3日分」（7.4%）、「2日分」（9.2%）、「1日分」（8.0%）の4つを合わせた『備蓄している（計）』（30.0%）が3割となっている。

一方、「備蓄していない」（68.7%）が約7割となっている。（図表6-7）

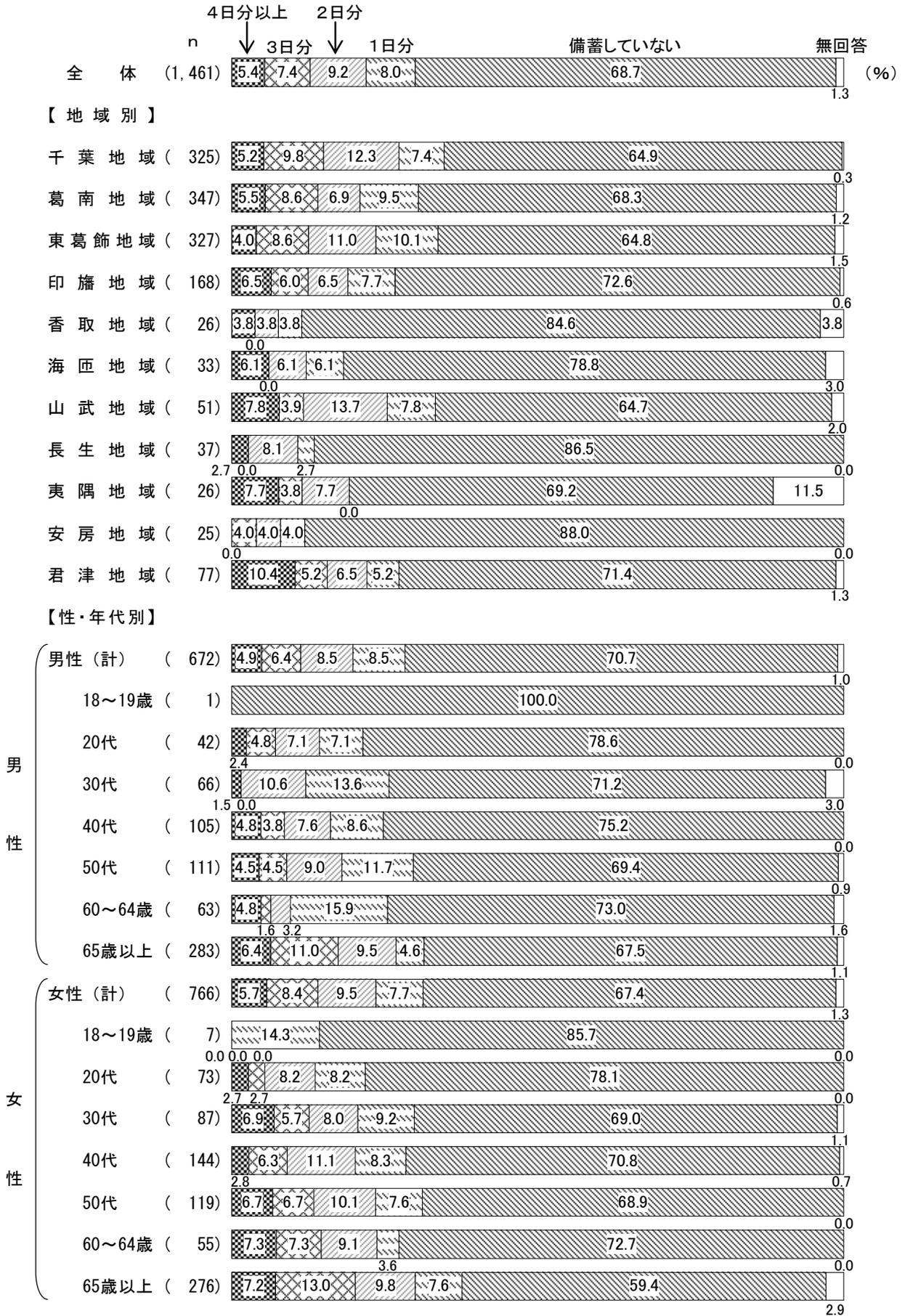
【地域別】

地域別にみると、「備蓄していない」は“安房地域”（88.0%）が約9割、“長生地域”（86.5%）が8割台半ばで高くなっている。（図表6-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『備蓄している（計）』は女性の65歳以上（37.7%）が約4割で高くなっている。（図表6-8）

<図表6-8>災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況／地域別、性・年代別



（5）災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

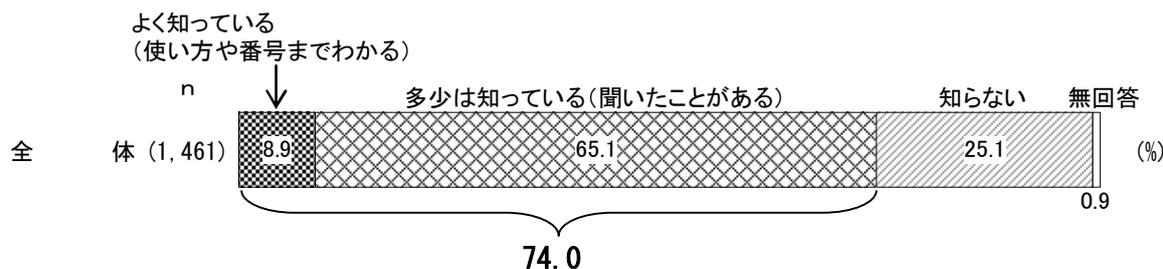
◇『知っている（計）』が7割台半ば

問34 固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなります。実際に東日本大震災でも、使用できなくなりました。

あなたは、災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。

（○は1つ）

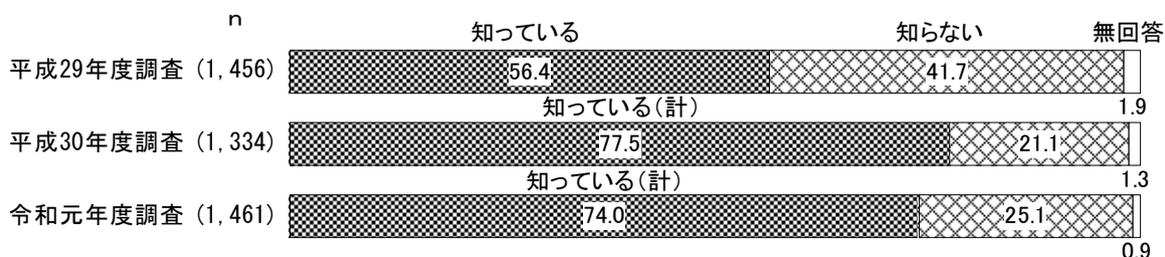
＜図表6-9＞災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度



災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているか聞いたところ、「よく知っている（使い方や番号までわかる）」(8.9%)と「多少は知っている（聞いたことがある）」(65.1%)を合わせた『知っている（計）』(74.0%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」(25.1%)が2割台半ばとなっている。(図表6-9)

〔参考〕平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



(※) 平成30年度調査から、選択肢「知っている」を「よく知っている（使い方や番号までわかる）」と「多少は知っている（聞いたことがある）」に変更した。

【地域別】

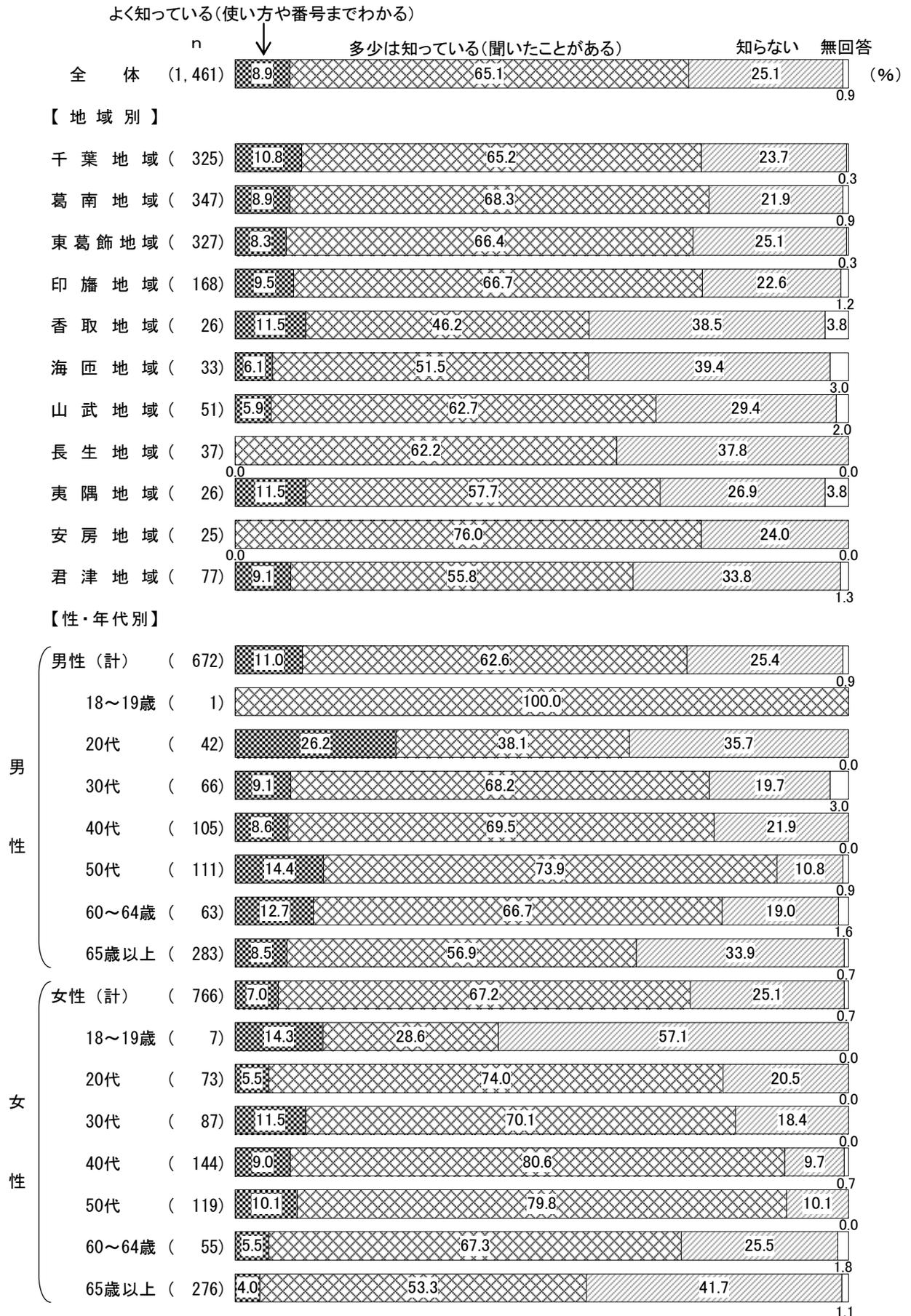
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表6-10)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は男性の50代(88.3%)と女性の40代(89.6%)、女性の50代(89.9%)が約9割で高くなっている。

一方、「知らない」は女性の65歳以上(41.7%)が4割を超え、男性の65歳以上(33.9%)が3割台半ばで高くなっている。(図表6-10)

<図表6-10>災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度／地域別、性・年代別

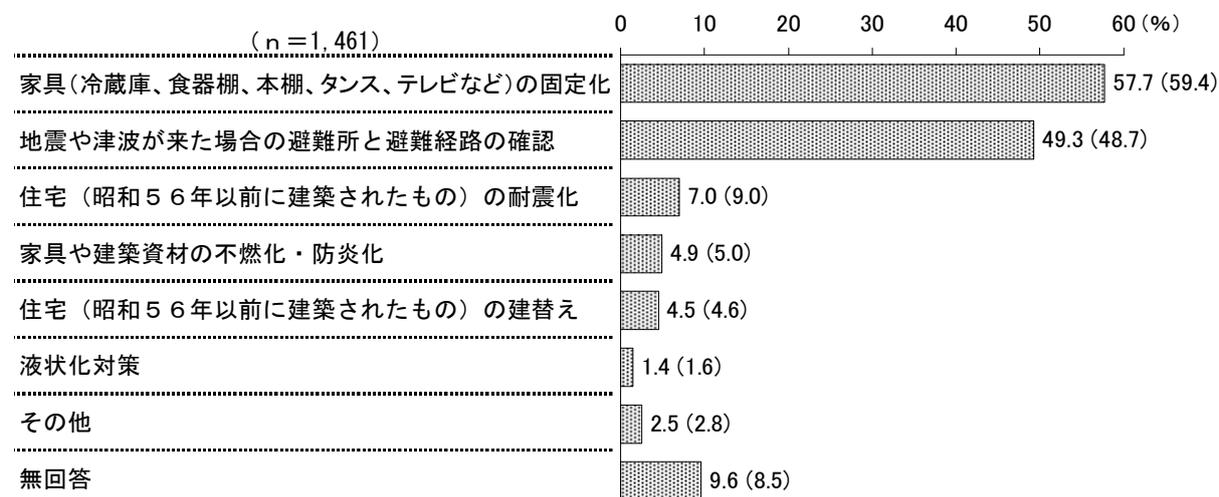


（6）地震の被害を防ぐための対策

◇「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」が約6割

問35 あなたは、地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか（行う予定ですか）。（○はいくつでも）

<図表6-11>地震の被害を防ぐための対策（複数回答）



注) () の数字は平成30年度の同様の項目による調査結果 n=1,334

地震の被害を防ぐため、どのような対策を行っている（行う予定）か聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（57.7%）が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難経路の確認」（49.3%）、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（7.0%）が続く。（図表6-11）

【地域別】

地域別にみると、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の建替え」は“海匠地域”（18.2%）が約2割となっている。（図表6-12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は男性の65歳以上（65.7%）が6割台半ばで高くなっている。

「地震や津波が来た場合の避難所と避難経路の確認」は女性の50代（59.7%）が約6割で高くなっている。（図表6-12）

<図表6-12>地震の被害を防ぐための対策（複数回答）／地域別、性・年代別

